

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100442		
法人名	有限会社 都紀		
事業所名	西与賀紀水苑		
所在地	佐賀市西与賀町大字高太郎183番地1		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年1月24日	外部評価確定日	平成23年3月8日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体事業所があり月に1回の勉強会の参加や3ヶ月に1回の訪問指導を受ける事が出来る。他フランチャイズグループホームとの意見や情報の交換ができ、サービスの質の向上が図れている。又、法人でも3事業所のグループホームがあり合同での催し物や入居者・スタッフの交流の場を提供している。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの建物は交通量の比較的多い県道に面してはいるが、建設されて1年半の新しいホーム内にいると外の騒音は全く気にならない静かな環境にある。玄関横の中庭には入居者が自由に土いじりが出来るようなスペースも用意されている。内部もディルームを中心に居室のどこからでも比較的集まり易いように設計されていて日中はスタッフ共々入居者はゆっくり・楽しく過ごされていてホームの理念が生かされている。入居者・スタッフのグループ内他ホームとの交流もなされていて心強く安心されている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念と別に事業所独自の理念として「家庭的な環境と地域住民との交流の下でゆっくり一緒に楽しく自分らしい生き方を求めて」を掲げ日々、入居者を中心に心地良い生活が送れる様毎月のケア会議などでスタッフ間で共有し実践に繋げている。	法人全体の理念に加え、ホーム独自に「ゆっくり一緒に楽しく」を中心にした理念をもっている。申し送り時等一日のはじめにお互い確認し合い、定例のスタッフ会議等でも再確認しスタッフ間で共有する様につとめている。理念の掲示場所を検討したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域ボランティアの受け入れ、地域音楽祭への参加など地域の一員として交流している。	開設当初より地域には代表者をはじめ親しくお付き合いできるように機会あるごとにつとめている。	開設されて間もない事もあって、地域内でまだ十分に交流がなされていない面もあるが、地区内での回覧板のやりとりや、地区での苦役等にも積極的にのぞみ、地域の一員として日常的な交流がなされる様な工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された地域の方々に認知症についての説明や支援方法、相談など地域貢献に取り組み、外部より要請があった時は施設見学にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーとして自治会長・民生委員・交番署員・おたっしや本舗・入居者家族の方々に参加して頂き、当苑の現状報告や情報開示だけではなく要望・助言等意見を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催され記録も整理されている。出席者も地域包括センター、入居者家族をはじめお願いして最近地域自治会長、民生委員の方々の参加をみるようになった。現状報告、質疑応答等もみられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム便りを郵送し、運営推進会議への参加をして頂きおたっしや本舗ネットワーク会議など積極的に参加し協力関係が築けるよう取り組んでいる。	現在のところ行政とのコンタクトは地域包括センターが主ではあるが、市役所担当部署にも機会を作って訪問し協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはその方の人権を侵害する行為である事を職員全員が理解しており原則として行わない方針である緊急時やむを得ず行う場合は家族への説明・同意書を頂き行う。前例はなし	現在まで「身体拘束」の事例はないが、スタッフ全員が「身体拘束」のリスクを研修等で理解し、又、「禁止の対象となる具体的な行為」も正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり防止マニュアルの作成、また虐待に関しての情報を得た場合には学ぶ機会を提供し職員同士が見過ごさない様注意を払いながら防止に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体系列本部にて学べる機会があり、現在利用されている入居者がおられる為協力していく体制である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時意向に沿ったサービスが出来る様十分に話し合い、入居者やその家族の要望などを取り入れ理解や承諾を得ている。また、契約内容の改定の際も十分な説明を行い承諾の上で同意書をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のケアの中で入居者が意見や要望・苦情が言える様な関係性を作っている。それでも遠慮されたり、言えない方についても、家族会開催時にアンケート調査(匿名可)を行い、収集結果を報告している。	「意見箱」も玄関出入りに用意をし、運営推進会議への家族の参加もみられその場で意見・要望もお聞きし、年1度は行事のおり家族に出来るだけ集まって頂きホーム運営について話し合っている。運営に反映させ意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見や提案を傾聴しながら管理者が代表者に意見として申し入れしたり、また直接代表者と職員が話せる懇親会や食事会を通し言える機会を設け取り組んでいる。	年間の、あるいは隔年の行事として研修会、懇親会、スタッフ旅行等も計画していて、日頃から管理者が配慮してスタッフとの距離を作らないように努めている。意見をスタッフミーティングなどに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の個々の努力や実績・勤務状況など把握し向上心を持って長く働いて頂けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体系列本部にて月1回の勉強会が行われており参加できる機会を設けている。また、個々のスキルアップの為、他研修希望があれば受講できる様勤務体制の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC加盟グループホーム同士で年1回の交流研修会をおこなっており、他施設を体験することで新しい知識や技術を学ぶ事ができサービスの質の向上させる事が出来る。また、本部勉強会では他施設の参加もありお互いの情報の交換の場でもある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当日(可能であれば事前)に本人の不安事や要望などをしっかりと聞き取りを行い、環境の変化での不安を最小限に出来るよう配慮すると共に同苑者とスタッフとのより良い関係づくりが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前か入居当日に必ず家族からの要望・意見を聞ける場を設けており真摯に思いを受け止め信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接をする段階で常に何が課題となりどのような支援を要するのか見極め、他のサービス利用・社会・地域資源利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者本位に考え、支援にあたる様心掛けています。入居者全員は一つの屋根の下で生活を共にする家族という思いで接し関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に行い本人の状態報告を行い把握して頂くよう努めている。又、出来るだけ家族の面会をお願いし絆を大切に保ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば連絡を取り面会に来て頂いたり、地域への行事への参加も行っており馴染みの人や場所との関係が保てるよう努めている。	入所前に居住しておられた実家近くの方が時折家族と共に面会にこられる。それも現在限られた入居者であるし、これからは「人や場所」との関係が途切れない様に支援につとめる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活を送る仲間としてトラブルや孤立を回避できる様対応している。場合によってはスタッフが仲介に入ったり仲裁に入るなどして入居者同士の関係を良好に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも相談・支援を求められれば可能な限り対応し、必要に応じ経過のフォロー・情報の提供を行う姿勢である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の思い・考え・希望を傾聴し、可能な範囲で叶えられるよう対応している。本人の自己決定を基に困難な場合でも本人本位に検討し支援していく姿勢である。	入居者の一日の生活の中でスタッフと共有出来る時間もゆっくり確保されており、入居者一人ひとりの思いや希望・意向は把握している。それを表出する事が困難と思われる時は一緒に過せる時間を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・基本情報等職員が把握できるよう、閲覧できるようにしている。又、家族・知人からの新しい情報はスタッフ間で共有し、ケアに反映出来る体勢を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期・状態変化時には再アセスメントを行うと共に、その情報を基に一人ひとりの残存機能を最大限に発揮できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン変更時には本人・家族より要望、意見の聞き取りを行い反映させている。又、アセスメントを基に課題・ニーズを導き出し留意する点など具体的な介護計画を作成している。	介護計画は最終的にはケアマネジャーでまとめているが、居室担当制の下、それまでの過程に於いてスタッフが関わっている。モニタリングに於いても担当者主導で実施しスタッフ会議で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の記録を色分けし、その日の経過を個別に状態や支援内容が分かるよう記録している。又、月1回のケア会議で個別の処遇検討を実施しスタッフ間で情報の共有を行うと共に介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の病院受診や検査受診等家族の同伴が難しい場合はスタッフが付き添い受診を行い、対応をしている。又、遠方に在住の家族に対しては重要な書類の受け取り・手続きなど代行し、地域と家族間との連絡調整に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域駐在所と消防団とも密に連携体制が取れるようにしている。入居者に民生委員・自治会長の訪問時には地域の様子など報告してもらい安心して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院に主治医を変えるか、現状のまま主治医の変更をしないか選択してもらっている。また、協力病院とはもちろんであるが、協力病院以外の病院であっても必要な時に連絡がとれ、密な連携が取れている。	入居者・家族とは入居契約時に話し合い希望を聞いている。入居当初は出来るだけ従来のかかりつけ医に受診をお願いし、ホームの生活に慣れられたら家族の希望によりホーム協力医の往診に変更される事もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し入居者の状態報告・相談を行い、指示・助言を受けている。又、24時間連絡でき指示を仰ぎ適切な受診や看護を受ける事が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の指示に従って本人の体調や経過を見極めながら退院に向けた話し合いを家族を含め行っている。協力病院の主治医や看護師との連携を図り関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会での看取りの説明をし意向確認を取らせて頂き、状態変化が著しい時又、ドクターからの看取りへの意見を頂いた時は看取りケアに移行する事を伝えている。本人・家族の思いを尊重し、対応方針の共有を図るようにしている。	重度化や終末期に向けた方針は文書化しており、入居契約時に入居者・家族には十分に説明して方針は共有されている。又、状態の変化が現れた時にはその時点で再度家族に理解を得る配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に常にスタッフが対応できる体制をとっており、定期的に救急法や訓練を行っており実践に繋げる力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、内1回は消防署立会いの下、昼夜を想定して訓練を行い助言・留意点などを求めている。地域消防団にも協力依頼をしており災害時の体制を整えている。	年1回は消防署立会いのもと総合訓練を実施している。年2回の訓練は記録も執り欠かしていない。夜間想定訓練も実施している。	夜間や職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域の住民の参加や協力が得られる体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてその方の尊厳を守りながら日々のケアに心掛け、人格を尊重し入居者が失敗されても自尊心を傷つけないような対応で接している。	日常過されている時、スタッフは入居者にとってより家庭的に過して頂く様に配慮し、お一人おひとりを大切に思い、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる環境を作り、自己決定を行える様な言葉掛けを行い、決定が難しい方は表情や仕草など観察して訴えや気持ちを察知し本人が納得して決定できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調やペースに合わせて慌てずゆっくりした対応を心掛けている。入居者本位で要望に添えるよう可能な限りの支援を行い、その人らしく暮らしていけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などなるべく本人に選択して頂き、十分でない所のみその時に合った服装を助言したりとスタッフがさりげなくフォローを行っている。又、自分自身での選択が困難な方に対しては、その方に合った身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量に応じ一緒に準備・片付けをして頂いている。又、栄養バランスを考え好みを踏まえた食事の提供、誕生日などにその方が食べたい物を提供し楽しんで食事摂取できるように支援している。	スタッフ全員が、入居者にとって食を楽しむ事が生活の中でいかに大切であるかを十分に理解し、準備の時から入居者の出来る範囲で手伝っていただき、同じテーブルで、同じものを食することで良い雰囲気を作れるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態・量・水分確保に努めている。又、栄養バランスが偏らない様1日30項目を目標に食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促しており不十分な所のみ介助している。義歯の方は毎月奇数日にポリデント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間オムツ使用者も日中パンツ使用し時間を決め言葉掛け行いトイレ案内し排泄を促している。トイレでの排泄を意識付け行くと共に排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中、入居者ごとの排泄チェック表を記録し、利用する事で各自の排泄パターンをスタッフ全員が把握し、習慣付け排泄の自立に向けた支援を行っている。開設当初は夜間オムツの方も多かったが誘導する事により改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材を使った食事の提供を心掛け、運動や歩行を促したりしている。便秘がちな方には牛乳の提供や排泄時に腹部マッサージを行う取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者のその日の状態・体調に合わせて無理をさせない様言葉掛けを行い、週3、4回程度時間帯や要望を対応しながら入浴できる体制を整えている。	入浴は原則週3・4回程と最低決めているが、希望があれば毎日の入浴も可能な体制は整えている。体調が思わしくない入居者には足浴、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や体調に合わせた休息を促している。日中の活動(お手伝い・レク・趣味)を充実させ規則的な生活を送る事で生活の質の維持が保てるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的・副作用・用法や用量は看護師・薬剤師より説明指導を受け申し送りや送りノートにてスタッフ間で共有し理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事・したい事を見い出し一人ひとりが能力を発揮できる場を作っている。又、私の気持ちノートを作成し、今の入居者の思い願いを把握し叶えられるような支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のバスハイク苑外行事や事業所合同レクなどででの外出できる機会を設けている。買い物や散歩の要望があらわれる時は、短時間でも屋外に出る機会を作り気分転換が図れる様支援している。	年間行事に沿った苑外行事及び他事業所との合同レクリエーションにおいて外出の機会があり写真等での記録も残している。又、買い物でも外出の機会をもうけている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理されている方もおられ、買い物支援をしており、出来る限り本人に支払いまで行ってもらっている。力量に応じお金を使う喜びや感覚を作れる様取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より依頼があった場合は通信の支援を行っている。遠方に在住の親類の方に手紙や電話の手配を行い、その方の気持ちの配慮・察知しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱をまねかないよう入居者の要望を取り入れ季節感を感じられるような掲示物・置物・花などを配置し又、行事等で撮った集合写真など貼り雰囲気作り心掛けている。	ホーム内は明るく設備も整っていて音・光・広さ・温湿度には十分に配慮されている。壁面にはバスバイクでの写真があり、ディルムや廊下には季節の花もさりげなく見られる。入居者がさりげなく暮らしていける工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング中央にL字にソファを置き入居者同士が話ができ、自由に過ごせるスペースを作っている。又、机や椅子の配置を考え一人でも過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室への持ち込みは自由であり家族にも使い慣れた物を持参して頂くよう協力をお願いしている。今まで生活されていた雰囲気や安心できる環境づくりに配慮している。	入居者の居室はまだ物足りなさを感じられるが、家族には自由にこれまで使い慣れたものを持って来て頂く様をお願いしている。居室には仏壇を持って来て頂いたり鏡台があったり居心地よく過せる工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーであり、手すりを設置し動きやすく安全に過ごして頂けるよう配慮している。見当識障害のある方に対しては大きな表示や矢印など違和感のないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。  (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない